

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	うどんこ病	やや多	やや多
	褐斑病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ (防除情報第12号)	多	多
	コナジラミ類	やや少	やや少
トマト	黄化葉巻病	並	並
	コナジラミ類	やや少	やや少
	ハモグリバエ類	少	少
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	炭疽病(<i>G.cingulata</i>)	並	並
	アブラムシ類	並	並
	ハダニ類(注意報第6号継続)	多	多
	ハスモンヨトウ	少	少
ブロッコリー	オオタバコガ	やや多	やや多
	黒腐病	並	並
	べと病	並	並
	コナガ	並	並
	ヨトウムシ類	やや少	やや少
	オオタバコガ	並	並
レタス	アオムシ	やや少	やや少
	灰色かび病	並	並
	菌核病	並	並
かんきつ	オオタバコガ	並	並
	ミカンハダニ	やや多	やや多

【発生予報】 本文の()内は平年値

きゅうり

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(9筆)の結果、発病葉率は12.1%(5.5%)、発生圃場率は66.7%(58.6%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

2. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(6筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.1%、発生圃場率3.0%)。

3. ミナミキイロアザミウマ

平成26年11月18日付け**病害虫発生予察防除情報第12号**による。

4. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(6筆)の結果、寄生葉率は4.3%(9.0%)、発生圃場率は66.7%(79.7%)であった。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率3.1%)。

2. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は1.3%(3.1%)、発生圃場率は41.7%(49.1%)であった。

3. ハモグリバエ類

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、被害複葉率は0.2%(被害株率2.9%)、発生圃場率は16.7%(43.8%)であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率1.4%)。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 罹病葉や不要な下葉はできるだけ除去し、圃場外へ持ち出し、処分する。
- イ 薬剤は、古葉等を除去処分した後に、葉裏や下位葉にもむらなくかかるように十分量を散布する。
- ウ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. 炭疽病 (*G.cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は7.4%(7.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発病及び枯死した株は、伝染源となるので見つけ次第速やかに圃場外に持ち出し、圃場周辺に放置しない。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は2.4%(2.3%)、発生圃場率は33.3%(26.8%)であった。

4. ハダニ類

平成26年10月15日付け病害虫発生予察注意報6号を継続。なお、その後の発生状況は以下のとおりである。

(1) 発生状況

ア 11月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は14.7%(2.0%)、発生圃場率は59.3%(23.6%)であった(図)。

イ 病害虫防除員からの報告によるとやや多~やや少の発生である。

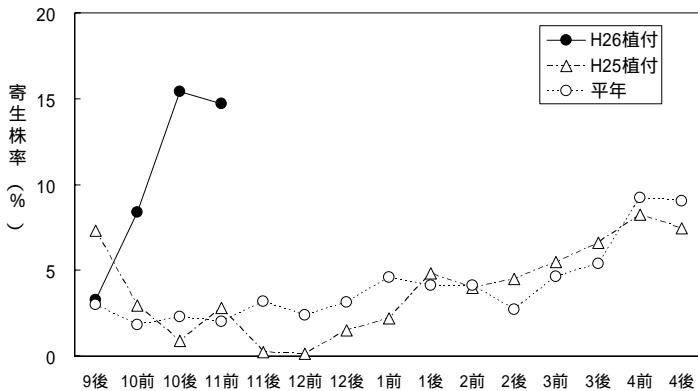


図 いちご ハダニ類 寄生株率の推移
 平年: H16 ~ H25の平均値(最大・小値除く)
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19 ~ H25の平均値

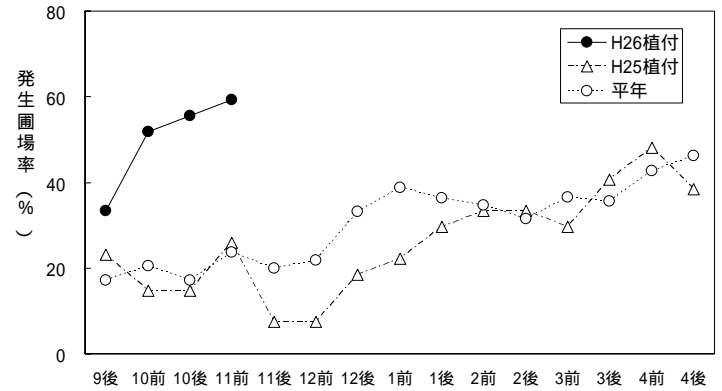


図 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移
 平年: H16 ~ H25の平均値(最大・小値除く)
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19 ~ H25の平均値

5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(27筆)の結果、食害株率は0.6%(3.6%)、発生圃場率は11.1%(48.1%)、寄生株率は0.1%(0.7%)であった。

6. オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.3%(過去5ヵ年平均0.1%)、発生圃場率は14.8%(同6.7%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 幼虫は齢が進むと薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫期に防除を行う。

イ 薬剤は虫体によくかかるよう丁寧に散布する。

ブロッコリー

1. 黒腐病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は1.7%(過去7ヵ年平均2.6%)、発生圃場率は16.7%(同14.3%)であった。

2. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(同発病株率0.1%、発生圃場率2.4%)。

3. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は4.7%(同6.6%)、発生圃場率は66.7%(同52.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤の連用はしない。

4. ヨトウムシ類(ハスモンヨトウ、ヨトウガ)

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、ハスモンヨトウの寄生株率は0.7%(同2.2%)、発生圃場率は16.7%(同26.2%)であった。

ヨトウガの発生は認めなかった(同寄生株率2.3%、発生圃場率25.0%)。

5. オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.3%(同0.8%)、発生圃場率は25.0%(同14.3%)であった。

6. アオムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(同 寄生株率0.6%、発生圃場率8.3%)。

レタス

1. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

2. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発病株率は0.1%(0.1%)、発生圃場率は6.7%(4.8%)であった。

3. オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率0.1%、発生圃場率2.7%)

かんきつ

1. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は13.8%(5.5%)、発生圃場率は63.9%(52.8%)であった。

【参考】

気象 (平成26年11月13日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	40	30
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

予報対象地域：九州北部地域

平成26年度の気象経過 (長崎地方气象台)

